

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学 学術情報センターだより

vol. **50**

2019年6月28日
【編集・発行】
神戸市外国語大学
学術情報センター



AD ALTIORA SEMPER (アド・アルティオラ・センペル) とは
ラテン語で「常により高きを求めて」という意味です



特集 創刊50号記念インタビュー ... P.8

P.1 巻頭言

P.5 第1回「読みたい本を決めろ！
ビブリオバトル@外大図書館」
を開催しました！

P.3 著書紹介

P.6 あなたにオススメの
図書館スポットはここ！
ほか

未来の本質を自分の言葉で語る、預言者たれ

学術情報センター長 芝 勝徳

1993年初夏、神戸市外国語大学はインターネットに接続された。今から四半世紀前のことである。正確には当時開発中の図書館システムをインターネットに接続させたということが正しいが、インターネットの定点観察が本学図書館の視点でできるとするならまさしく外界への視界がひらけた瞬間であった。インターネットに接続・参加するということはとりもなおさず、自組織の「ドメイン名」を決定することから始まるのだが KOBE-CUFS という .JP から数えて3層目の文字列の決定には KOBE-CU、すなわち City University で止めるべきか Foreign Studies をつけて正式名称にするか一瞬逡巡した記憶がある。たかが2文字ではあるが、将来にわたってメールアドレス等のタイピング数が比例して爆発することと発音して説明する時のめんどろさが頭をよぎったからである。

告白すればこの決定にあたって学内の誰とも相談した覚えはない。そもそも「図書館業務の電算化」という化石のような用語で予算確保されたプロジェクトにとってカウンターでの図書の貸出・返却を手作業から端末作業とするプログラムの開発、目録データのコンピュータデータベースへの入力を完了させるという大きな課題・作業に比較してインターネット接続は必須ではあったが「ついで」のことであつたからである。

さらに告白すれば、遡ることこの時から数年前、神戸市全体の公共図書館と大学図書館を統合するシステムを構築するという予算を獲得する時点ではインターネットという名辞は使っていなかった。今思えば確信犯ではあるが予算獲得してしまえば作ってる最中に「実はこんなもんにも使えるんです」と言ってしまうばいいと思っていたのは確かである。この後、世紀をまたいで人類の文明進化の中核技術に発展していく可能性など説明しても財務当局者には

怪しい「預言者」にしかならないと考えていたからでもある。

Yahoo! や Google はネット上に存在していなかった。Yahoo! は1994年創業、Google は1998年創業であり、GAFAの一角と呼ばれる Facebook に至っては2004年創業であり、1993年とはそもそも World Wide Web が出現して普及する前夜であった。今世紀に生まれた人に Web やそれを元にした SNS が無いインターネットの環境を説明するのは困難かもしれないが、本学図書館ではその最先端の研究成果をほぼリアルタイムでトレースできる環境が成立していた。

本学が World Wide Web の出現に同期していた拠点であった物証としてのコンピュータがひとつ残っている。(p.02 画像左: ティムの NeXT Cube、画像右: 私が使用していた NeXT Cube)

1990年の終わりにジュネーブの欧州原子核研究機構 (CERN) に在籍したティム・バーナーズ=リーが研究所内での文書管理、研究者間での論文を中心としたハイパーテキスト技術を背景にした広義の図書館システムのために書き下ろしたものが World Wide Web である。彼の発明は人類史に残るが彼と本学にとって同時性を伴って偶然の一致だった点がふたつある。ひとつは図書館システムのための予算・プロジェクトがその範囲を超えて汎用的なインフラになったという点、もうひとつは彼が使用していたコンピュータが当時私が使用していたものと同一のものであったことである。この NeXT Cube と名付けられたコンピュータは1980年代の後半、Apple を退社したスティーブ・ジョブズが新しく起こした NeXT 社が販売していたものである。GAFA の一角である Apple にいたジョブズの確信を凝縮した機械であり、バーナーズ=リーがこの機械の上で彼の理想をどう実装していくかは当時の私には手に取るように理解できた。

同じ機械と類似した業務目的・目標をもつ私はほぼリアルタイムでCERNのシステムを見て「ついで」に作った本学のWebサーバを公開するにさほどの困難を感じなかった。組織内で誰も仕事の本当の意味や内容をチェックしてないという問題は残るけれども。神戸とジュネーブでメールやニュースシステム、ftp というプロトコルでファイルを配布・共有するといった手段以外に直接的な接触はなかったが最も先端の成果を学内に実装することができた。

さらにこのWebサーバは翌年1995.1.17の地震の情報を世界中に配信することになる。世界中のマスコミがほぼ事後承諾もしくは無断で本学の画像を流用した記事やニュースを流した。たぶんこの国のWebサイトの歴史上、最も初期に「炎上」したサイトであり、たった1台のデジタルカメラとWebサーバでもメディアの世界を変えることができるということを証明したサイトであったはずである。ちなみに、国内の新聞やその他のメディアにその記録が残ることはなかったけれども、被災当日から1か月間のアクセスのうち海外からの閲覧が9割以上を占め、国内からは数パーセントというのも外国語大学らしい記録であった。

その後数年間のYahoo!、Google創業。カンブリア爆発のように質・量的に拡大するWebコンテンツに対応する検索エンジンができ、Windows95以降のPCにはインターネット接続機能が備わった。一般家庭レベルでもインターネット接続サービスがISPを通じて購入できるようになり、前世紀末の時点ではこの国において世帯普及率がおおよそ50%に達する。組織単位のWebサイトは双方向性を持つ個人単位の

ブログに発展し、「いいね!」の付加価値を持つSNSに変質し、PCからスマートフォンへの移行により各種センサーを組み込み、さらに人の生活、あらゆる場所、場面に食い込みライフターゲティングの結果としてのビッグデータの生産装置としての地位を確立していく。AIやIoT、自動運転技術等今世紀になってからの図書館は相対的にこれらの変動に対して総じて受け身になっていくが、GAFAsの最後の一幕Facebookの創業もハーバード大学、Yahoo!とGoogle両方の創業メンバーがスタンフォード大学の在学時に構想を得たものであることを思うと感慨深い。

Googleの共同創業者の一人ラリー・ペイジの言葉「発明だけでは不十分。ニコラ・テスラは電気を発明したが普及に苦勞した。2つを組み合わせなければならぬ。発明とイノベーションに注力し、商品化と普及が可能な企業でなければならない。」と。2019年6月末、大阪でG20が開催される。先立つ財務相・中央銀行総裁会議では「デジタル課税」が主題に上がる。「いいね!」は価値か?それは課税の対象になるか? 自国優先主義国家元首と課税を最小限にしようとする企業の思惑、一国で解決できない国境を超えた価値の再配分。これらは技術者だけの視点ではない。本学が扱うべき主題としてダイナミックに発生、変化している。

学生・院生諸君へ。「恐れずひるまず最先端の現場に立ち会え。その現場で起こっていることは既存の価値や体制の下には説明ができないものかもしれない。しかし必ず何かを得ることができる。未来を予め話す予言者ではなく、未来の本質を自分の言葉で語る預言者たれ。」



▲ ティム・バーナーズ＝リーのNeXT Cube (世界で最初のWebサーバ)

出典: Wikipedia



▲ 本学のNeXT Cube

言語に反映される 動的世界の見方

ロシア学科 准教授
金子 百合子 (かねこ ゆりこ)

『アスペクト論』

ユーリー・S・マスロフ(著)
林田理恵、金子百合子(訳)
ひつじ書房、2018.9発行

図書館所蔵：N801.5-968他



昨年 2018 年 9 月にひつじ書房より出版された『アスペクト論』は、ソ連時代の言語学者ユーリー・セルゲーヴィチ・マスロフ (Юрий Сергеевич Маслов) 著による『アスペクト論概説Очерки по аспектологии』(レニングラード [現：サンクトペテルブルク]、1984)の全訳です。実は、マスロフのアスペクト研究は1970年代後半から日本でも引用されるなどして、その後の日本語のアスペクト論の展開に少なからず影響を与えてきました。さらに90年代初頭には原著の一部やマスロフの別の論文の和訳も出ています。今回、マスロフのアスペクト研究の集大成とも言える本書の全部が日本語でアクセス可能になり、それを喜んで下さる方はスラヴ諸語の研究者だけではないでしょう。翻訳には実に7年かかりました。

「アスペクト」という言語に内在するカテゴリーは、動的事象(動詞で表される全ての事態をまとめて仮称します)が時間の流れの中でどのように推移し配置されるかを表わすもの、と一般的に理解されます。テンスと同じように時間に関係しますが、テンスが発話時点というはっきりとした基準で動的事象を時間軸上に位置づけるのに対し、アスペクトは話者が動的事象そのものの姿を時間に関係してどのようなものと眺めるか、という話者の解釈が反映される主観性の高いカテゴリーです。もちろん、“動的事象そのものの姿”は、その動詞によって意味された言語外現実の属性と密接に関係します。それは状態か、動作か、活動か、出来事か、それとも偶発的なハプニングなのか、などです。したがって、

アスペクトは動詞の語彙意味とも切り離せません。スラヴ諸語ではこれが文法カテゴリーとなっていますが、他の言語においては文法カテゴリーではなくともアスペクトの機能意味野は何らかの形で表わされます。アスペクトの表現形式は実に多様で、そもそも純粋にアスペクトだけ切り取って語れることは限られており、テンス、タクシス、ムード、そして何よりも動詞の語彙意味が複雑に入り組んでいます。

本書でマスロフは、アスペクトを巡る諸問題を解決するために、古代ギリシア語・ラテン語から現代語(スラヴ諸語、ゲルマン諸語、ロマンス諸語)に到る言語変化の過程について、具体的な言語資料を丁寧に紐解きながら綿密な考察を重ねていきます。索引に載っている言語(語族等も含め)は86種類に上ります。本書は、アスペクトとその他カテゴリーとの交差、通時態と共時態、時間と空間、標準語と言語変種、文語と口語、など様々にアングルを変えながら、アスペクトがどのように生まれ、どのような影響を受け育ち、どのような形で現在世界に散らばっているか、を壮大なスケールで描き出す学術的読み物です。アスペクト研究につきまとう悪名高い「術語の煩雑さ」もあり、決して読みやすい本ではないと思いますが、読み直す毎に知的興奮がジワジワと味わえる、そんな本です。

I always tell my graduate students: 'Do not say that you are writing a dissertation because you have to finish writing it! Instead, say you are working on it! Then you cannot lie if you fail in writing it!'
(Laura Janda, 2004)

図書館アンケートの結果について

2018年11月から12月にかけて、
図書館アンケートを実施しました。

回答期間 ▶ 2018年11月12日(月)から12月13日(木)
回答方法 ▶ GAIDAI PASSアンケート回答フォームから回答
対 象 ▶ 学生・教員・職員

今回から、回答方法をウェブフォームに変更しました。印刷したものを配布・回収していた前回と比べ回答率が下がることを心配していましたが、予想より多くの方から回答をいただくことができました。ご協力に感謝いたします。アンケート結果の詳細は図書館ウェブサイトで公開しています。^{*1}ここでは自由記述欄の主なご意見にいくつかお答えしたいと思います。

図書を充実させてほしい
(日本の小説など)

購入希望が出せます

電子書籍を入れてほしい

今後増やす予定です

図書館内が寒い

ひざ掛けを置きました

図書館職員が本を選ぶ際は「本学での学習・研究活動の支援」という目的を最も重視します。このため購入希望の受付や選書ツアー^{*2}の実施で普段選ばれないものを補っています。申込用紙はカウンター等で入手できます。読みたい本が図書館にないとき、ぜひご利用ください。

OED、Gale Virtual Reference Book など辞典類のほか2018年に Maruzen eBook Library を導入しています。現在は、地球の歩き方、TOEIC 関連書籍など一般書 268 タイトルを利用できます。様子を見て今後も増やしていきたいと考えています。利用方法は図書館 HP「オンラインデータベース」をご覧ください。^{*3}

温度計を設置するなどして適切な室温設定につとめていますが、場所により冷えるところがあるかもしれません。対策としてひざ掛けの貸出を始めました。カウンター付近に置いています。また、これも要望のあった荷物用のかごを設置しています(ラーニングコモンズ・第二閲覧室)。どちらもどうぞご利用ください。

アンケート結果をもとに、よりよい図書館になるよう努力してまいります。
今後も引き続き図書館運営へのご理解とご協力をお願いいたします。

アンケート回答特典について

文庫・新書にかけられるブックカバーを作成して希望者にお渡ししました。大学のラインアートを使用したデザインです。回答者の多くがカウンターへ「回答しました」とスマートフォンを見せてくださり、好きな色を選んで持ち帰られました。また、学長の小型活版印刷機でクリスマスカードを作るイベントにも、多数の参加申込をいただきました。12月に実施したイベントの様子は図書館 Facebook でご覧いただけます。^{*4}



^{*1} 2018年度図書館アンケート集計報告 <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/files/survey2018.pdf>

^{*2} 図書館で購入する本を、学生が書店で選ぶイベント。2019年は10月実施予定。

^{*3} 神戸市外国語大学学術情報センター>オンラインデータベース <http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/odb/>

^{*4} 神戸市外国語大学学術情報センター(図書館)公式 facebook、2018年12月20日「活版印刷イベントを開催しました」
<https://www.facebook.com/lib.kobe.cufs/posts/2012543105462051>

第1回「読みたい本1位を決めろ!ビブリオバトル@外大図書館」を開催しました!〔2019.1.23〕

1月23日(水)の午後、ビブリオバトルを開催しました。ビブリオバトルは、参加者が5分間ずつ本を紹介して、聴衆が一番読みたくなった本を投票で決めるイベントです。“第1回”と銘打っていますが、実は何年か前にも開催しています。これから継続的に開催しようという意気込みのもとに、今回新たなスタートを設けさせていただきました。

今回のビブリオバトルの要となる発表者は4名、学生3名となんとロシア学科教授の岡本崇男先生。それぞれ用意した資料は以下の通りです。

- ① 谷崎潤一郎著『春琴抄』(図書館所蔵：新潮文庫)
- ② ガブリエル・ガルシア＝マルケス著、木村榮一訳『ガルシア＝マルケス「東欧」に行く』(図書館所蔵：N963.9-518-12)
- ③ カレル・チャペック著、千野栄一訳『ロボット』(図書館所蔵：N080-13-774-2)
- ④ 斎藤兆史著『英語達人列伝：あっぱれ、日本人の英語』(図書館所蔵：N081-14-1533)



▲ 第1回ビブリオバトルの告知ポスター

5分間、発表者は一生懸命に本の魅力を語ります。どうしてこの本と出会ったのか、本が生まれた時代の背景など、観客も聞いているうちに発表者が作り出す世界観にぐいぐい引き込まれます。タイマーの音で発表者も観客も我々に返り、5分間が終わったことに気づくのです。観客はすっかりその本に引きつけられ、次々と質問を繰り返します。「読みたい!」と

いうシンプルな欲求を引き出すのがビブリオバトルの良いところ。

4名が思い思いに本の魅力を語りつくしたあと、観客が一番読みたくなった本を選びます。



▲ ビブリオバトルの様子

見事チャンプ本に輝いたのは…『英語達人列伝：あっぱれ、日本人の英語』でした。しかし4冊それぞれ票を獲得しており、どの発表も魅力的であったことがうかがわれます。

最近、テレビ番組やYouTubeでも自分の好きなものを紹介するようなコンテンツが増えていますね。“プレゼン力は身につけておいて損はない気がします。”

友達に「この本面白かった!」とオススメするような軽い気持ちでの参加大歓迎!上手く喋れなくても全然かまいません。あなたも、お気に入りの一冊を紹介してみませんか?

神戸市外国語大学学術情報センター(図書館)

読みたい本1位を決めろ!

第1回ビブリオバトル @外大図書館

日程：2019年1月23日(水)
 時間：13:30~16:30(予定)
 場所：ラーニングcommons(図書館)
 募集：発表者5名(※先着順)
 〆切：2019年1月8日(火)
※応募者が発表人数に達した時点で募集を終了します。

詳細は館内カウンターもしくは、
 観覧自由!見るだけでもどうぞ

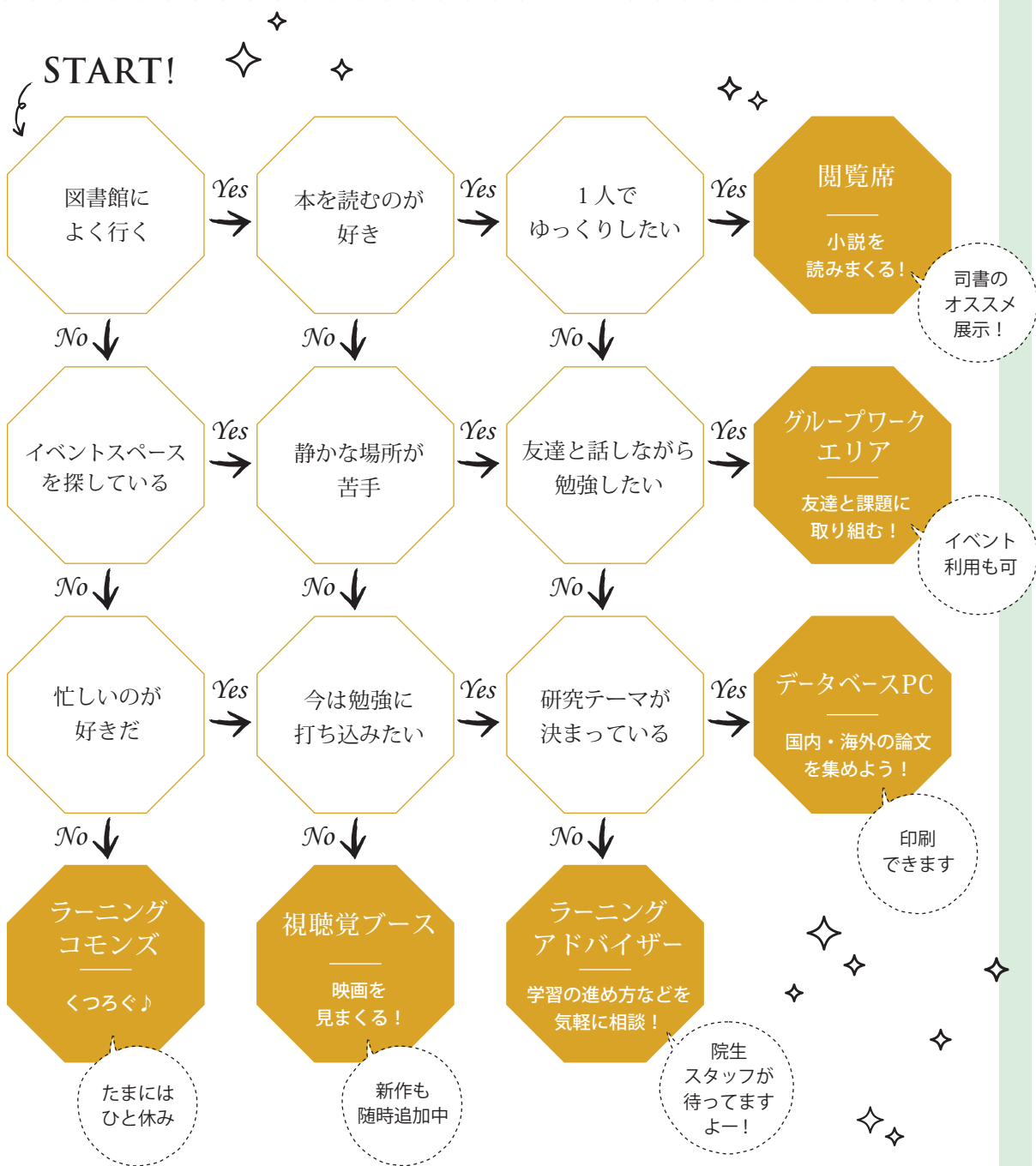
ビブリオバトルは、参加者が本を紹介して、聴衆が一番読みたくなった本を投票で決めるイベントです。

観覧自由!見るだけでもどうぞ

主催 (ジェンジェ)

あなたにオススメの 図書館スポット はここ！

図書館って本を読むところだけではないんです。映画を見たり、友達とくつろいだり、情報収集したり。あなたにぴったりの使い方は何でしょう？さあ、Yes か No で質問にお答えください。



図書館を
もっと
使いこなそう

これ、ご存知ですか？

外大図書館では利用者みなさまに円滑に利用していただけるよう、さまざまな取り組みを実施しています。ぜひ知ってほしい、図書館の便利なあれこれです。



さらにくわしい図書館の使い方

配置場所

閲覧室入口パンフレットスタンド

掲載概要

利用案内ではカバーしきれない詳しい情報を掲載しているリーフレットです。現在手に取っていただけるテーマは以下の6つ。サービスを利用したことがない方、利用方法が分からない方はぜひご一読ください。

- ・視聴覚資料の利用
- ・文献複写（他大学から論文のコピーを取り寄せる）
- ・現物貸借（他大学から図書を取り寄せる）
- ・公共ILL（神戸市立図書館から図書を取り寄せる）
- ・卒業論文の閲覧
- ・訪問利用（他大学図書館を利用する）



Newsletter

配置場所

- ・カウンター
- ・閲覧室入口パンフレットスタンド

掲載概要

身近で速報性の高い広報媒体として、図書館からのお知らせが中心です（発行は不定期です）。専攻言語別の図書館活用法や大学院生スタッフによる新生へへのアドバイスが掲載しています。



SPECIAL スペシャル インタビュー INTERVIEW

図書館報
創刊 **50** 号
記念

神戸外大図書館の図書館報が 1991 年に創刊されてから 28 年、今回で 50 号となります。四半世紀を超え発行されてきた図書館報、その発行元である外大図書館の歴史を振り返るため、創刊当時の事務長の吉村秀夫氏にお話を伺いました。



吉村 秀夫
Yoshimura Hideo

- 1959 年 神戸市に神戸市外国語大学図書館司書として採用される
- 1969 年 全国化した大学紛争に外大も巻き込まれ図書館も封鎖される
- 1986 年 学園都市へのキャンパス移転に伴い図書館の移転を担当
- 1987 年 第 2 部への司書課程・学校図書館司書教諭課程設置に携わり、非常勤講師を兼務
- 1995 年 神戸市を退職。65 歳まで神戸市外国語大学司書課程の非常勤講師を務める

Q. 吉村さんは学園都市キャンパスへの移転、司書課程設置など様々なことに尽力し、今日の図書館を作られたとお伺いしています。

36年間の在職中にはいろいろのことをさせていただきましたが、私一人で出来た仕事はありません。図書館長をはじめとして図書館員の皆さんや大学を構成する多くの教職員の方々そして卒業生の方々の協力があったことです。それらの中で最も力を注いだのは資料購入費を増額することでした。

Q. 1986年に現在の学園都市キャンパスの図書館が出来上がりました。当時の記憶はありますか。

大学ではキャンパス内のどの位置に図書館が配置されるかが問題です。新キャンパスでは大学の正門を入ると正面に曲線を取り入れた斬新なデザインの図書館が現れる配置となっていて、その存在の重要性が理解されたものと大喜びしたものです。また大学構成員にとっても納得できる配置であったと思います。これで今後の図書館運営に力を注ぐことができるとの感を強くしたものです。このような配置にさせていただいたことに大学当局に心から感謝したものです。



Q. 楠ヶ丘キャンパスの図書館と現在の図書館の大きな違いはなんですか。

楠ヶ丘キャンパスの図書館は、学舎棟や研究・本部棟とは公道を挟んだしかも坂道を登らねばならない不便な位置にあり、資料はほぼ完全な閉架式であり大変利用しにくい状況にありましたが、新天地では、資料のオープン化を大々的に取り入れたところに特色がありました。また、新図書館では開架・閲覧室の空間を思い切り大きく確保することができて(天井が高いところで4m90cm) おおらかな雰囲気を出すことができたと思います。

Q. 第2部に司書課程を設置されたのが吉村さんであると伺いました。どのように設置されたのでしょうか。

私が司書課程・学校図書館司書教諭課程を作ったものではありません。外大の教授会がその意思決定をしたのです。楠ヶ丘キャンパスの時代から、教育学関係の諸先生方がその課程設置の必要性を構想しておられ、キャンパス移転を契機に、第2部の活性化のために必要施策であると教授会に発案され教授会構成員皆さんの賛同を得て設置することになったのです。私はその課程設置の事務手続き面を担当したにすぎません。文部省(現在の文部科学省)は本学の課程設置に対して大変好意的でした。それは公立大学でこの課程を設置している大学は極めて少ないということ、そして地域的に大変適切であるということでした。兵庫地域の図書館員希望者(聴講制度などを活用して)を積極的に受け入れることを勧められました。

Q. 司書には何が必要だと思われませんか。

司書に必要なのは、世の中で必要とする情報(大学においては開設されている科学諸分野の情報)を的確に提供することです。それは、基本的には専門的知識を持っていなければ不可能なことです。司書はその

習得に日夜研鑽することが求められると思います。大学で専攻した分野をベースとして、専門分野を複数持つことも可能かと思われまます。我が国においては、これまで大学図書館ですらそういう司書を配置してこなかったのですが、今後はその必要性が強く求められると思いますし、それが図書館の存在意義に関わることになると思います。これからの司書職者の課題ですね。

Q. 今はコンピュータやネットワークがどんどん発達しています。

今は何もかもが「コンピュータとインターネット」で全てが解決するよう思われがちですが、コンピュータの世界＝情報の全てではないということです。確かにインターネットを通じて多くの情報を得ることは可能ですが、情報の信頼性という点では紙情報といいますか図書・学術雑誌情報の方が優れているのではないのでしょうか。

Q. 得られる情報が多い分、情報を検索するのが難しくなっているように感じます。

最近“肉じゃがの作り方”をネットで調べたのですが、多数のレシピのうちのどれを使うべきか、その見極めに大変苦勞をしました。多数の同一主題の情報の中でどれが信頼できるものであるかを見極めるには、その分野の基本を十分に理解していなければなりません。図書館司書に求められることはそのことだと思います。それは「理想論で実現不可能」と考えられましようが、世の中の多くのことが不可能と考えられながら努力によって時代的要請にこたえてきました。今後はますます情報が氾濫する世の中になるでしょう。一人ではその処理が不可能となります。図書館司書の役割は、信頼できる情報の探索案内人としてあらゆる分野に必要不可欠なものになると思います。

📖 図書館日誌

2018年	12.3-1.31	展示「司書のおすすめD」第43回
	12.19	活版印刷イベント「活版印刷×LIBRARY クリスマスカードをつくる」
2019年	1.21-2.8	2018年度第3回 Re ユース
	1.23	図書館イベント「読みたい本1位を決めろ！第1回ビブリオバトル@外大図書館」 1月のゼミガイダンス（1回実施）
	3.20-3.29	蔵書点検
	4.5	学部オリエンテーション、大学院オリエンテーション
	4.6	英語教育学オリエンテーション
	4.7-4.10	初年次教育 学科ごとに実施（水曜日1回、日曜日5回）
	4.9-7.27	展示「司書のおすすめD」第44回
	4.8-4.26	2019年度第1回 Re ユース
	4.17	JLPオリエンテーション 4月のゼミガイダンス（10回実施） 5月のゼミガイダンス（13回実施）
	6.4-5	トライやるウィーク（1校2名受入）
	6.27	図書館イベント「シネマdeバトル 見たい映画1位を決めろ！-スペイン語圏映画編-」 6月のゼミガイダンス（5回実施）



		AD ALTIORA SEMPER vol.50 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第50号
ISSN		0919-2336
編集・発行		神戸市外国語大学学術情報センター
		〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1
		TEL : 078-794-8151 / FAX : 078-797-2257
		URL : http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/
発行日		2019年6月28日
発行責任者		センター長 芝 勝徳